

三原市立宮浦中学校第2学年 国語科学習指導案  
単元名： 豊かな言葉～「新しい短歌のために」

指導者：三原市立宮浦中学校 水野 沙代

- 1 日 時 : 平成27年6月24日(水) 第5校時  
2 場 所 : 2年4組教室  
3 学年・学級 : 第2学年4組(31名)  
4 単元名 : 豊かな言葉～「新しい短歌のために・短歌十二首」

## (1) 単元観

本単元に関わる学習指導要領における目標及び内容は次のとおりである。

- 1 目標  
(2) 目的や意図に応じ、社会生活にかかわることなどについて、構成を工夫して分かりやすく書く能力を身に付けさせるとともに、文章を書いて考えを広げようとする態度を育てる。
- 2 内容  
B 書くこと  
(1) ウ 事実や事柄、意見や心情が相手に効果的に伝わるように、説明や具体例を加えたり、描写を工夫したりして書くこと。  
オ 書いた文章を互いに読み合い、文章の構成や材料の活用の仕方などについて意見を述べたり助言をしたりして、自分の考えを広げること。
- C 読むこと  
(1) ウ 文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをまとめること。  
エ 文章に表れているものの見方や考え方について、知識や体験と関連付けて自分の考えをもつこと。

第一単元で学習した「説明の仕方を工夫しよう」では、自分の興味ある事柄について、相手に分かりやすく伝わるように、説明する事柄と比較をする対象をおき、共通点や相違点を述べた。その後、学習者相互で交流をし、文章の工夫点や改善点について意見・助言を行い、文章を推敲している。

本単元でつけた力は、それぞれの短歌について気づきや評価を述べ合いながら、作品を読み味わったり、自分でも短歌を推敲・創作したりする学習を通して、文章に表れているものの見方や考え方について、自分の考えを深めたり広めたりし、それを言葉で表現する力である。

本単元の学習にも学習者相互の交流を踏まえて、推敲を行うという上で、単元相互の関連も図りながら指導をする。

## (2) 本単元において育成しようとする資質・能力とのかかわり

本校としては、以下の資質・能力の育成に重点を置く必要があると指摘している。(資質・能力の分類については、本校がパイロット校として推進する本県の示す「学びの変革」による。)

【知識・スキル】①課題解決力②知識・情報活用能力】③表現力④コミュニケーション能力

【意欲・態度】⑤協調性・柔軟性⑥責任感⑦主体性・積極性

【価値観・倫理観】⑧自己理解⑨共感力⑩公共心⑪人としての思いやり

この中から、本単元において育成しようとする資質・能力とのかかわりについて、次の3点に重点をおくものとする。

(i) 【知識・スキル】③表現力

事実や事柄、意見や心情を相手に効果的に伝える表現力。

(ii) 【意欲・態度】⑦主体性・積極性

積極的に意見を述べたり助言をする力、他の学習者の意見を取り入れようとしたり、授業で学んだ表現技法を使おうとしたりするといった主体性。

(iii) 【価値観・倫理観】⑨共感力

表現されているものの見方や考え方について、自分の知識や体験と関連付けて、共感的に受け止める力、他の学習者からの意見や助言を肯定的に受け止めようとする力。

## (3) 生徒観(調査結果からみる課題)

第一単元の教材「アイスプラネット」では、学習のまとめとして「ぐうちゃんへの手紙」を学習者に書かせている。「手紙」を書く際の観点として、「手紙を受け取ったときの主人公の心情」「ぐうちゃんが主人公に伝えたかったこと」「ぐうちゃんの手紙が主人公に与えた影響」の三つを置いた。三つの観点のうち、二つ以上手紙の内容

A	25
B	84
C	4
全体	113
A以上(%)	22.1239

に盛り込んでいるものをB、三つ全て書かれており、教科書の内容を根拠に書かれているものをAと評価した。左の表を見ると、A評価は全体の22%程度と非常に少ないことがわかる。二つ以上の観点が書かれていても、根拠がなく、不十分であるものが多くみられた。このことから、根拠をもって自分の言葉で表現する力を育成することが必要であると考ええる。

また、第一単元の最後の教材である「説明の仕方を工夫しよう」でも、書く活動として「自分の興味ある事柄について、相手に分かりやすく説明をしよう」という400字作文に取り組んでいる。単元観でも述べているよう

A	59
B	27
C	3
全体	89
A以上(%)	66.29213

に、学習者相互で交流を通して文章を推敲する活動を行った。左の表は、推敲後の作品の評価である。評価する観点として「序論・本論・結論の構成であるか」「比較対象との共通点・相違点を明確に述べるなど、根拠を明確にして自分の考えをまとめてあるか」「他の学習者からの意見や助言を取り入れようとしているか」という三つを置いたところ、A評価は全体の66%を超える結果となった。これらのことから、学習者相互の考えを交流することで、お互いの学びを引き出す効果があると考ええる。

本単元でも、書いた文章を互いに読み合い、文章の構成や材料の活用の仕方などについて意見を述べたり助言をしたりして、自分の考えを広げる力をつけさせたい。

## (4) 指導観(指導改善のポイント)

本教材を学習し、最終的に創作した短歌を「第21回大伴家持大賞」に応募、大賞をとることを目指すことを生徒に伝える。このことにより、生徒の学習意欲を引き出させたい。そして、一次では学習前に短歌を作ってみることで、自分の考えや心情をわずか三十一文字の言葉で表現する難しさに気づかせるとともに、よりよい短歌を作るためには、効果的な構成や表現の仕方を学ぶ必要性を感じさせる。

次に、教科書の短歌から情景や心情・考え方を効果的に表すための表現技法を学び、整理分析をしていく。その上で、創作する短歌において効果的な表現力を身につけさせていく。

短歌を創作する際の指導の手立てとしては、ワークシートによる構想メモの作成をする。具体的には、「いつ」「どこで」「だれと」「どのような」「どんな思い」を想定した短歌なのかを設定させる。そして、設定した心情や情景を表すのに効果的な表現や効果、構成は何かを学習の中で整理した事柄から考えさせる。構想メモを作成することで、短歌に込める学習者の考えに根拠を持たせ、課題解決に向けた意識付けを行うことができる。

また、創作した短歌の推敲を行う際の手立てとしては、付箋を用いた学習者相互での交流を行う。互いに読み合う活動を通して、積極的に意見・助言しようとしたり、他の学習者の短歌について共感的に受け止めようとする力を育てる。また、推敲する活動を通じて、他の学習者の意見を取り入れてみよう、自分の短歌をよりよいものにしようとする主体的な姿勢を育てたい。

## 5 単元の目標と評価規準

### 単元の目標

- 短歌を読み、そこに使われている言葉や表現に即して情景や心情を想像する。
- 心情や情景が伝わるように、表現のしかたを工夫して短歌を作ることができる。

### 単元の評価基準

国語への関心・意欲・態度	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
短歌を読み味わい、短歌独自の世界や表現に興味・関心を持ち、心情や場面などを想像しようとしている。	①心情が読み手に効果的に伝わるように、描写を工夫して短歌を創作している。  ②短歌を互いに読み合い、構成や材料の活用の仕方などについて意見を述べたり助言をしたりして、自分の考えを広げている	①短歌の構成や表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをまとめている。  ②短歌に描かれた言葉から、情景や心情・考え方について、知識や体験と関連付けて場面を想像し、自分の考えをまとめている。	短歌のリズムを生かして朗読することを通して、伝統文芸の世界に親しむことができる。

## 6 指導と評価の計画

全6時間 (本時は 5/6)

次	学習内容 (時数)	主な学習内容				評価規準	資質・能力の評価
		関	書	読	知		
1	<b>課題の設定</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の創作した短歌を応募するという目標をもつ。</li> <li>現段階で、短歌を一首作る。</li> </ul>	◎			○	・短歌のリズムを生かして朗読することを通して、伝統文芸の世界に親しむことができる。	行動観察
2	<b>情報の収集</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>それぞれの短歌の意味を理解し、短歌に描かれた言葉からその情景や心情を捉える。</li> </ul>			◎		・短歌の構成や表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをまとめている。	行動観察 ノート
3	<b>整理・分析</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>それぞれの短歌に用いられている構成や材料の活用の仕方を整理する。</li> </ul>			◎		・短歌に描かれた言葉から、情景や心情・考え方について、知識や体験と関連付けて場面を想像し、自分の考えをまとめている。	行動観察 ノート
4	<b>まとめ・創造・表現</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>構想メモを使い、短歌を創作する。</li> <li>創作した短歌を読み合い、自分の作品を推敲する。 (2)【本時2/2】</li> </ul>		◎		○	<ul style="list-style-type: none"> <li>心情が読み手に効果的に伝わるように、描写を工夫して短歌を創作している。</li> <li>短歌を互いに読み合い、構成や材料の活用の仕方などについて意見を述べたり助言をしたりして、自分の考えを広げている。</li> </ul>	行動観察 ワークシート 相互評価
5	<b>振り返り</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>創作した短歌を短冊に書く。</li> <li>学習をふりかえる。</li> </ul>	◎				・短歌を読み味わい、短歌独自の世界や表現に興味・関心を持ち、心情や場面などを想像しようとしている。	行動観察 作品 自己評価

## 7 本時の展開

### (1) 本時の目標

短歌に描かれた情景や心情について、想像したことや工夫されている点を発表し、自分の作品の推敲に活かす。

### (2) 観点別評価規準

短歌を互いに読み合い、構成や材料の活用の仕方などについて意見を述べたり助言をしたりして、自分の考えを広げている。【書くこと(1)オ】

評価方法：行動観察、ワークシート、相互評価

### (3) 準備物

ワークシート、付箋（2種類）

### (4) 学習の展開

	学習活動	指導上の留意事項及び評価（■） （努力を要する生徒への指導の手立て◆）
導 入	<p><b>課題の設定</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・フラッシュカード（対義語）</li> <li>・前時の復習</li> <li>・本時の目標を確認する。</li> </ul>	
展 開	<p><b>【本時の目標】</b>・短歌を読み合い、意見・助言をする。 ・創作した短歌を推敲し、よりよい作品に仕上げる。</p> <p><b>情報の収集</b></p> <p>○創作短歌を読み合い、意見・助言する。 <b>集団思考</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・付箋（赤）に工夫されている点、付箋（青）に改善点を書く。</li> </ul> <p><b>整理・分析</b>      <b>まとめ・創造・表現</b></p> <p>○自分の短歌を推敲する。 <b>個人思考</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループでの助言・意見を参考にする。</li> <li>・効果的な表現技法を考える。</li> </ul>	<p>■短歌に用いられている構成や材料の活用の仕方をポイントに、意見・助言をする。</p> <p>◆ノートにまとめた表現技法を使っているかどうかに着目させる。</p> <p>■付箋の助言・意見を参考に表現を工夫させる。</p> <p>◆なぜ自分と違う解釈をした人がいたのかを考えさせる。</p> <p>◆付箋の助言・意見に出た言葉を短歌の中に入れさせる。</p>
ま と め	<p><b>振り返り</b></p> <p>○ふりかえりをする。</p>	